

# 令和7年度事業報告書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

社会福祉法人 晃宝会

## 目 次

1 はじめに .....	1
2 特別養護老人ホーム あじさい園 .....	2
3 ショートステイ あじさい園 .....	5
4 医 務 室 .....	6
5 栄養士・調理師 .....	8
6 歯 科 衛 生 士 .....	10
7 特別養護老人ホーム あじさい園宝 .....	11
8 ショートステイ あじさい園宝 .....	16
9 グループホーム あじさい園宝 .....	18
10 グループホーム あじさい園 .....	19
11 デイサービスセンター あじさい園 .....	19
12 ケアハウス あじさい園 .....	21
13 居宅支援事業所 あじさい園 .....	22
15 オレンジカフェ すいもん .....	23
16 ニコニコタクシー（介護輸送サービス） .....	24
17 ハーネ中御門 .....	25
別 紙 .....	29～55

## 事業報告書

社会福祉法人晃宝会  
理事長 松村圭祐

晃宝会の初心である「ご一緒に 楽しい人生」を、ご利用者さんと向き合う中毎日忘れずにいたでしょうか。また、私達おのこの初心を忘れず1年間、過ごすことができたでしょうか。あじさい園創立30周年を迎えるにあたり、令和7年度1年間は、振り返りをおこなう良いチャンスとなりました。

困難を乗り越えようと頑張る姿、その経験は人を成長させました。誰かのためにと精一杯尽くすことが自分の喜びへと変化している姿もありました。

「介護」とは、日常生活が困難な人を支えて、尊厳のある自立した生活ができるよう手助けすること、その3原則は、生活の継続性、自己決定の尊重、残存能力の活用、です。尊厳を守りながらその人らしい生活が送れるよう支え、ご本人の希望やそれぞれの環境に合わせた心身のサポート、さらにはご家族の心身の健康を守ることにもつながります。医療との連携も大切です。

「社会の安心」「安心して暮らすことができる地域づくり」でもあります。

崇高な領域を担っていることにあらためて、責任の重さを痛感しました。その崇高な領域も「ご一緒に 楽しい人生」という純粋で素直な気持ちが出発点です。

それは、住みなれた地域で生活のリズムや習慣を大切に、このみの食事、季節を五感で感じるなど、ご本人の思いや希望をしっかりと聞き取り、その人らしい生活の実現を支援すること、ご本人の能力を正しく評価し、見極めながら尊厳と意欲を守り、心身の機能維持を図るなど、毎日の生活の小さな積み重ねにより成り立ちます。

私達は介護のプロフェッショナルとして、初心にかえり、より一層磨きをかけたいと、あらためて思える令和7年度の1年間であったことを報告いたします。

※別紙1参照（令和7年度 主な環境改善内容）……………P.29

## 2 特別養護老人ホーム あじさい園

### 法人目標 『初心忘るべからず』について

あじさい園には入職して10年以上の職員が多く在籍しており、長年勤めていると慣れ合いが生じて緊張感の薄れが感じられる場面もあり、基本に立ち返ることの大切さを改めて確認した1年間でした。本年度は奈良県生産性向上総合センター運営事業のモデル事業所に名乗りをあげました。業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、外部の研究機関と連携を図り、業務改善に取り組みながら、介護ソフトの導入に向けて職員同士意見交換しながら初心に戻り、一から習得してまいりました。このプロジェクトの取り組みについての成果発表を経験し、多くの学びがありました。

新しい事を始めるにあたり、しっかりと前準備を行うことや職員との対話を繰り返して組織で取り組んでいくことが大切であると実感しています。

#### パーソンセンタードケアのために

5つの心理要素「自分らしさ」「結びつき」「携わること」「共にある事」「くつろぎ」を軸に支援・援助を行ってまいりました。

#### 1 『自分らしさ』

ご利用者に寄り添い安心して生活を送って頂ける様に職員一人ひとり笑顔で優しい心で接するように心掛けました。しかし、慌ただしく業務をしている事もあり、笑顔で接しないといけないという気持ちと裏腹に、日々の業務を行っていく事に精一杯になることもありました。

#### 2 『結びつき』

ご利用者一人ひとりにケース担当者が専属して配置され、ご利用者の日々の状態を観察し、適宜その状況に合わせて援助内容を変更して支援しました。また、ご家族との連絡についてもケアマネジャーと各担当職員が連携を図り、情報の共有に努めました。

#### 3 『携わること』

ご利用者の持っている残存機能を維持出来るように、手を動かしてもらえるように、可能な方はたたみ物等を職員と一緒にして頂くよう取り組みました。また、自分で出来る喜びや必要とされていると感じられる職員からの感謝の声掛け、家庭的な雰囲気にも気を配りました。

職員と一緒に朝・夕のラジオ体操に取り組みました。ご利用者には少しでも身体を動かしていただくよう促し、職員には腰痛予防の一環として健康増進・ストレスの軽減に繋げていくように努めました。

#### 4 『共にある事』

職員一人ひとりがご利用者に対して丁寧な支援ができるよう努めましたが、職員の確保が難しい時もあったため、慌ただしく業務する事もあり、安心して頂ける空間ができていなかったこともありました。

#### 5 『くつろぎ』

精神不安定なご利用者が多い時にはその方々の対応に追われ、リラックスして頂け

る環境が整えられなかったこともありましたが、出来る限りご利用者の行動に対して制止せず、見守り・寄り添う気持ちを持つように努めました。食堂の座席配置もご利用者の方々が窮屈に感じないような空間で、見守りもしやすいように他部署の方々とも対話を繰り返し、その都度改善してまいりました。

四季折々の行事計画を考え、リハビリ・音楽レクなども取り入れ、身体機能の維持にも努めました。季節感を味わって頂ける様に栄養士が「春夏秋冬」その時々旬を迎える食材などを取り入れる献立をつくり、五感で楽しんで頂ける様に心掛けました。

#### 看取りケアについて

今年度はご利用者5名のお旅立ちに寄り添わせて頂きました。医師の指示・専門職との連携を図り、苦痛を和らげながら今まで住み慣れ、親しんだ生活空間の継続に努めました。また、今までの施設生活のお話などをさせて頂きながら、最後の時間をご家族の方々のお気持ちに寄り添えるように、職員も訪室する機会を多くさせてもらい、支援させて頂きました。エンジェルケア後の対面でご家族が「お母さん綺麗！」と涙ぐんで職員に感謝の言葉をくださる場面があり、印象深く心に残っています。

#### 過ごしやすい空間づくりのために

○ご利用者が、リラックスして安全に過ごして頂ける居室の空間作りを心掛けてまいりました。しかし、タンスの上の整理整頓が行き届かない所もありました。

○居室には自然光を取り入れ、ご利用者には窓から見える景色や風で季節の移り変わりを感じて頂きました。

○ご利用者には、訪問美容に来園頂き身だしなみにも気を配り、職員も清潔感のある身だしなみが出来ました。

○施設の老朽化により不具合が何点かありましたが、関係部署に繋げ迅速に修復でき安全に過ごして頂く事が出来ました。

#### 『職員』という環境を整えるために

○職員から技能実習生に積極的にコミュニケーションを図り連携し、技能実習生同士の間でも連携が取れつつあり、風通しの良い職場環境作りに努めました。

○生産性向上の取り組みの一環として、かねてから準備を進めていた介護ソフトを導入いたしました。それに伴い業務が見える化し、時間毎に担当を割り振り職員の負担軽減に努めています。

○施設内の温度や湿度については、可能な限り適切な空調管理に努めました。エアコンの室内機のクリーニングを業者に依頼し、リフレッシュしました。

○接遇面については、丁寧な対応と思いやりがある声掛けを心掛けましたが、業務優先となってしまう事もあり、丁寧な対応が少し疎かになってしまう事もあったように思います。今後も接遇の研修を継続し職員全員に意識づけしてまいります。

○年間目標に基づき毎月の目標を設定し、職員全体で達成を目指し協力しました。

#### 技能実習生について

##### ・1期生

(特定技能) 就業6年目を迎え、現在は現場運営に欠かせない主力メンバーとなって

います。職員による継続的なフォローアップを通じ、さらなる専門スキルの向上に取り組んでいます。

#### ・ 2期生

就業2年目が経過し特定技能試験にも合格しました。

業務面では、職場の雰囲気に対応し、ご利用者への直接的な支援も円滑に行える様になっています。

#### ・ 3期生

日本語でのコミュニケーション（理解・会話）において、まだ課題は多く残る段階です。

まずは、職場環境に慣れて将来的には円滑にご利用者の支援が出来るように職員及び1、2期生と連携を取りフォローを継続していきます。

安心して過ごして頂くために

### ◎感染症対策について

○ご利用者の免疫力低下等による感染症罹患リスクを減少させ、安全な施設生活を過ごしてもらうために出勤時及び業務開始前の手指消毒、検温の実施。食堂・居室・廊下・車椅子など、共用スペースおよび高頻度接触箇所の消毒行いました。

○スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗い、1ケア・1手袋・手指消毒の徹底を継続して行い感染症予防に努めていました。

○面会については、面会時間を15分間から30分間へ延長しました。多くの医療機関や介護施設で制限の緩和が進んでおり、ご家族様や関係者との時間をより長く持てるように時間の拡大を行いました。

○新型コロナウイルス感染症等が蔓延した場合の事業継続計画（BCP）の策定に取り組み指針やマニュアルの勉強会を行い職員への周知徹底に努めました。

### ◎事故防止対策について

引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）を行いました。事故の総件数は、前年度79件・今年度118件と39件増加しました。今年度は、事故歴のある特定のご利用者の事故件数が圧倒的に多く見られ、全体の24%を占めており、大半がベッドからのずり落ち報告でした。全体的には、ずり落ち事故が39件、皮膚めくれ事故18件、内出血事故15件と報告されており、介助時の不注意等により、外傷につながる事故が多く報告されました。事故発生場所としては、居室が62件、食堂が27件、廊下が12件、浴室11件と報告があり、圧倒的に居室で多くみられます。

事故については、ご利用者が居室にて臥床中に、ご自身で動かれて起きた事故が多くみられました。次に、車椅子座位中に立ち上がられて、バランスを崩されてしまう事故や車椅子の操作が上手く出来ずに動こうとされ、お尻がずれて車椅子からのずり落ち事故が多くみられました。

不穏や興奮状態で頻回に徘徊される方、大声を出される方、何度も立ち上がられる方等、見守りが大変な方が多くなってきており、限られた職員数での見守りでは行き届かない点が多々みられました。

今後は何事にも焦らず、丁寧に介助を行い、他部署と連携を密に取り、助け合いながらご利用者により安全に過ごして頂ける様に心がけていく必要があると思います。

(別添資料参照)

◎食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせてタイムリーに行いました。

◎歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援いたしました。

### ◎苦情相談対応について

年度内の苦情相談は2件でした。(職員の対応について 1件、運転手の運転マナーについて 1件 ※別紙参照)

ご利用者ご家族に気持ちよく過ごしていただき、事業所の社会的価値を担保するためにも接遇面、交通マナー等基本に立ち返り繰り返し確認いく必要性を感じています。

※別紙2 参照 (令和7年度年間行事報告 特養・ショートステイ) ……P.30

※別紙3 参照 (特別養護老人ホームあじさい園 利用状況) ……………P.31

※別紙4 参照 (令和7年度事故状況報告 特養) ……………P.33

※別紙5 参照 (令和7年度特養 苦情相談対応報告) ……………P.37

## 3 ショートステイ あじさい園

### 「初心忘るべからず」

ショートステイでは初心を忘れず、温かい心と丁寧な対応でご利用者お一人おひとりに寄り添い、不安を和らげ、心身共にストレスを与えず、生き生きと生活が出来るよう親しみやすい環境作りに努めて参りました。いつ・どこで・誰が聞いても不快に思わない適切な言葉遣いをする事を念頭に置き、積極的にコミュニケーションを図り、ご利用者の思いや要望に寄り添えるようにも努めてまいりました。

またご利用者だけでなく、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるよう職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせる事で「また利用したい」と温かいお言葉も掛けて頂き、目標に対しての達成感もあつたと感じています。今後もさらにONETEAMでより良い施設作りを目指していきたいと思ひます。

サービス提供について ※年間稼働表率は別紙参照

コロナウイルスが5類型感染症に位置づけられ、規制や制限が緩和されるもドライブ等の園外へ出る行事や外部ボランティアによるレクリエーションは実施できず心苦しい限りです。限られた人員の下、各職員で工夫して食事会やおやつパーティーの開催、平行棒や滑車を活用した機能回復訓練の実施やビンゴゲームやぬり絵・間違い探し等ご利用者の皆様には日々の暮らしがマンネリにならないよう努めてまいりました。また、顔馴染みのご利用者同士で席を並べる等して思い出話や近況報告等の会話も楽しんで頂けるよう配慮しました。職員一同がおもてなしの気持ちと笑顔でご利用者に安心して過ごして頂き、園での滞在期間を満足のいくものと感じて頂けるようなサービス提供を

心掛けました。

#### 事故について

※年間集計・詳細については別紙参照

事故総件数はR 7年度は、12件発生しており、外傷発見は2件ありました。

ヒヤリハット総件数は2件ありました。事故や、ヒヤリハットに対する検証や再発防止策については都度、主として事故防委員会で検討し、再発防止に努めました。また、全体会議においても報告し、情報の共有を行いました。

#### 感染症について

今年度は9月頃に施設内にてコロナウイルス感染症が発症しましたが、蔓延せず早期に収束出来た事もあり、利用予定をキャンセルして頂くこともなく、ご利用者・ご家族にご迷惑を掛けずにサービスを提供する事が出来ました。しかし、季節の変わり目等で体調を崩されるご利用者や、職員自身の体調管理が不十分で欠勤・早退が見られました。

感染症対策については、入所前の電話連絡時にご利用者とご家族の体調確認をさせて頂く・送迎時に体温測定を行い、園に到着直後手洗い・うがい・消毒をしていただけ食堂に誘導し、園にウイルスを持ち込まないように努めました。また毎日マスクを交換出来る体制を取り、感染予防に努めました。また感染症の勉強会やスタンダード・プリコーションの重要性を職員に周知徹底を行い、全職員が迅速な初期対応出来る様にスキルアップに努めました。

#### 苦情・相談について

苦情・相談受付総件数はR 7年年度は、1件でした。

面接時の説明を丁寧に行ってきたことや、こまめにご家族や、ご利用者とコミュニケーションを図り、要望や訴えにチームとして真摯に取り組んできました。また、声に出されない不安や意見についても気配りを行ってまいりました。

※別紙6参照（ショートステイ 年間稼働率表）……………P.38

※別紙7参照（令和7年度 ショートステイ 事故状況報告）……………P.39

※別紙8参照（令和7年度 ショートステイ 苦情相談対応報告）……………P.43

## 4 医 務 室

医務室業務として、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、職員の労働災害の予防対策、メンタルケアに努めました。

特養ご利用者の健康管理は週2回、内科医の定期診察を実施しました。皮膚科は月1回の往診、歯科も必要時診察を実施しました。ご利用者の疾病が老化と共に増加し、定期診察以外にも医療機関の受診も多くなりました。

- ・体調不良、外傷などで医療機関受診 延べ145名
- ・定期診察以外の体調不良時の往診 54名
- ・入院 延べ30名

急性肺炎 4名 誤嚥性肺炎 6名 アルツハイマー型認知症 1名 血管性認知症 1名  
多発性脳梗塞 1名 脳梗塞後遺症 1名 心房細動 1名 心不全 1名 慢性うっ血性心  
不全 5名 尿路結石症 2名 腎盂腎炎 2名 急性胆嚢炎 1名 急性胆管炎 1名 尿路  
感染症 2名 脱水症 3名 高ナトリウム血症 3名 低ナトリウム血症 1名 慢性腎臓病  
2名 胸水 1名 2型糖尿病 1名 蜂窩織炎 1名 食欲不振 1名

- ・救急搬送 4名
- ・あじさい園看取りでのご逝去 3名
- ・病院入院中のご逝去 2名
- ・入院療養継続の為退所 2名

ショートステイのご利用者が新型コロナウイルス感染発症(持ち込み)、ご利用中の  
方 5名及び特養ご利用者 1名に感染拡大した。退所や入院された方もおられるが、一  
人暮らしや自宅での療養困難の方は、あじさい園で対応させて頂いた。

上記以外にも時間に関係なく先生方には電話での対応もして頂きました。

ご利用者のバイタル測定、食事摂取、入浴、排泄など異常の早期発見に努め、夜間の  
救急を防ぐ為にも日中での早期発見に努めました。

今年度もご利用者と職員の健康診断、コロナワクチン、インフルエンザワクチン接  
種を行い、産業医と連携を図りアドバイスを頂き健康管理を行い、危険がない安心し  
て働ける労働環境を整え安全衛生にも取り組みました。

#### 令和7年度法人目標「初心忘るべからず」

看護師としての初心は、患者様に寄り添い、その人の為に尽力するという情熱や使  
命感を持って仕事に取り組むことです。しかし、慣れや業務の多忙さから初心を見失  
う事もあります。初心を忘れず患者様と真摯に向き合い、看護の質を高める為に、自  
分の行動や態度について振り返り、看護が十分であったか、改善出来るか考え、目標  
の設定、継続的な学習、また、笑顔を作る事は簡単に出来るが忙しい時に笑顔を絶や  
さない事はすごく難しく、不安を抱えている患者様に対応する立場であるからこそ笑  
顔を絶やさないよう努め、小さな変化に気を配り、精神面もサポートしスムーズに治  
療に繋げ、ご家族にも信頼して頂ける様努めました。

## 5 栄養士・調理師

### 食事提供について

私たちは、ご利用者の健康維持と生活の質の向上を目的とし、安全で安心できる食事提供に努めています。食事はご利用者にとって日々の大きな楽しみであることを意識し、「美味しく、食べやすく、安心できる食事」を基本に取り組みました。家庭的な食事を大切にしながら、季節の食材を取り入れ、香りや見た目、食感にも配慮し、食事の時間が少しでも楽しみになるよう工夫しています。また、一人ひとりの嚥下状態や体調に合わせて食事形態の調整を行いました。多職種と連携し、個人の栄養状態の維持に繋がれるように対応しています。高齢に伴い噛む力や飲み込む力が弱くなり、食事の摂取量が減少される方には、低栄養を予防し、経口摂取の継続ができるよう、摂取可能な食事内容や食品提供に取り組みました。

物価高騰が続いていますが、献立を工夫してご利用者に喜んで頂ける食事の提供に努めました。行事食や誕生日献立、喫茶などを継続し、「今日は何かな」と思っていただけのような食事づくりを心掛けています。

毎月の給食会議で各部署から出された意見・要望などを把握し、厨房会議にて問題検討し改善に努めました。

地域福祉サービスの一環として、地域のご利用者に配食サービスを行っています。また、地域の中で様々な理由により、食事に不安を抱えている方々へ支援を届ける事業として、まほろばレスキュー（食料支援）を行いました。

### 衛生管理について

「出さない・持ち込まない・広めない」を基本とし、マニュアルに基づいた日々の手洗い、手指消毒、身だしなみ、食品の温度管理などを行い、食中毒・感染症予防に取り組みました。忙しい中でも基本を疎かにしないことを意識し、声を掛け合いながら確認を行いました。結果として、厨房から食中毒や感染症を出すことなく、安全に食事提供を行うことができました。

一方で、異物混入などのヒヤリとする事例もあり、その都度原因を振り返り、職員間で共有しました。慣れによる油断が起きやすい現場であることを再認識し、基本の徹底に努めました。

### 感染症・災害時の対応について

感染症対応では、状況に応じて使い捨て容器での提供や、配膳方法の変更を行い対応しました。現場では「どうすれば安全に、かつ食べやすく提供できるか」を職員同士で話し合い、その都度改善を重ねました。日々の小さな気づきを共有することで、対応力の向上につながったと感じています。

非常食、使い捨て容器の確保を行い、賞味期限が近いものから献立に取り込み調理し、無駄なく提供を行いました。また、提供した非常食は随時新たに補充を行い、非常食の備蓄に努めました。咀嚼や嚥下に配慮した非常食を取り入れ、ソフト食、ペースト食の方にも食べやすく、安心して頂けるような献立の作成に取り組みました。

### 栄養ケアマネジメントについて

体重や食事摂取量、血液検査の結果などから、低栄養状態のリスクの有無や課題を把握しました。多職種と情報を共有するため、カンファレンスや話し合いを行い、ご利用者の状態に合わせた栄養ケア計画書を作成し、管理栄養士がケア計画内容をご家族に説明し、ご要望・ご意向を聞かせて頂きました。その際、低栄養状態のリスクだけではなく、普段の食事状況など、生活されている様子も合わせてお伝えさせて頂きました。

低栄養の可能性のある方や看取りケアの方に対しては、看護師・介護士と相談し栄養補助食品を追加したり、食事形態や食事量の検討を行いました。栄養補助食品については、ご利用者の状態や嗜好なども考慮し、数種類の中から適したものを選択し提供出来るようにしています。

ご利用者の食事時間に、ミールラウンド（食事中のご利用者への訪問）を行い食事の様子を観察しました。「自分の口で食べる喜び」をサポートし、健康を維持して頂けるよう、多職種と連携して取り組みました。

#### 食事形態一覧表について

あじさい園で提供している食事を写真に撮り、形態ごとにまとめた食事形態一覧を作成しました。ケアプラン会議では、ご家族などに食事の話をする際、提供している食事内容が分かりやすいよう、食事形態一覧表を見て頂きながら説明をしています。ご利用者の入院時や入所面接などの際、食事形態一覧を用いて情報提供することで、その方にあった食事を提供することにも役立てていければと思います

#### 令和7年度 法人目標「初心忘るべからず」を振り返って

「初心忘るべからず」という目標のもと、日々の業務の中で当たり前になっていることを見直す一年となりました。衛生管理の徹底や調理手順の見直し、職員同士の声掛けなど、当たり前のことを確実に行うことに努めました。しかし、忙しい時ほど基本が疎かになりやすいことも実感しました。人手不足の影響もあり、作業を優先してしまい、配慮や丁寧さが不十分になることもありました。そのような時こそ、初心を忘れず、立ち止まって考えることの大切さを改めて感じました。

作業に慣れてくると流れ作業的になりがちな仕事ですが、「この一食を楽しみにしている方がいる」という原点を意識することで、盛り付けや味付け、提供の仕方まで丁寧に向き合うことができると思います。

今後も初心を忘れず、一つひとつの仕事を丁寧に積み重ね、ご利用者にとって安心できる、そして楽しみになる食事提供に努めます。

#### R7年度 年間提供食数

	特養	ショート	ケア	グループ	デイ	配食
年間食数	55,309	6,875	20,550	19,307	5,520	1,340
1ヶ月平均	4,609	573	1,609	1,609	460	112
1食平均	51	6	18	18	15	4
年間総数量	108,901					

食種別食数 令和8年3月31日現在

	特養	ケアハウス	グループ	合計	割合
普通食	5	13	12	30	34.4%
刻み食	19	8	1	28	32.6%
超刻み食	2	0	0	2	2.2%
トロミ食	13	0	3	16	18.3%
ソフト食	3	0	2	5	5.7%
ペースト食	6	0	0	6	6.8%
経管	0	0	0	0	0%
合計	48	21	18	87	100%

R7年度 栄養摂取基準

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1,350kcal	55g	33g	7g未満
ケアハウス	1,450kcal	60g	35g	7g未満

R7年度 実給与栄養量

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1,464kcal	56.3g	38.5g	7.4g
ケアハウス	1,468kcal	56.9g	39.3g	7.5g

## 6 歯科衛生士

全事業所のご利用者の口腔ケアに歯科衛生士が直接関わり、他職種へのアドバイス、歯科医師との連携により、健康な口腔環境を継続できるよう努め、う蝕や歯周病への対応だけでなく、義歯の専門的管理、扱い方や手入れの指導助言、生活の質を大きく左右する「おいしく食べる」、「楽しくおしゃべりする」、「口の働きを維持するために大切な唾液を守る」ことを目標に、嚥下機能を保持するための歌・舌体操・DVDによる口腔体操などの口腔リハビリテーションを行いました。

オーラルフレイル予防で健康長寿を目指し、口から食べることを中心とした、口腔機能の低下予防が大切です。「お口は人生の入り口」とも言われ、食べる、しゃべる、呼吸する、表情をつくる、とさまざまな働きがあります。歯を大切にすることはもちろんですが、筋肉である口唇、舌、頬の機能向上も大切です。

高齢に伴い、歯数や口腔機能の低下、さらには、社会的、精神的、身体的な能力の低下も重なり、さらに弱くなった状態を、オーラルフレイルといいます。オーラルフレイルは可逆的であるため予防が大切です。健康長寿のための3つの柱としては、栄養（食、口腔機能）、身体活動（運動、社会活動）、社会参加（就労、余暇活動、ボランティア）です。歯科衛生士としての専門的な口腔ケアの介入によりオーラルフレイルの予防を実践し、「心身の健康」を維持できるよう努めました。

## 7 特別養護老人ホーム あじさい園宝

### 法人目標 『初心忘るべからず』を振り返って

ユニット型の特別養護老人ホームとして、地域のなかでご利用者が自分らしく安心して生活できる場所となるよう、初心を忘れず、笑顔で一日一日を大切に施設運営に取り組みました。介護の仕事に慣れてくると、技術や効率が向上する一方で、どうしても「作業」として向き合ってしまう瞬間が訪れるものです。「初心を忘れない」ということは、単に昔を思い出すことではなく「目の前の人を、人生の大先輩として、あるいは一人の人間として尊重する」という決意を更新し続けることかもしれません。

仕事に慣れることはプロとして素晴らしいことですが、それは「予測」ができるようになることであり、「省略」して良い理由にはなりません。「失礼します」「○○しますね」という当たり前の挨拶が機械的になっていないか、効率優先で尊厳を守ることが疎かになっていないかを、職員一人ひとりが考えて行動しました。初めて介護に触れたとき、多くの人が「自分にできるだろうか」「傷つけてしまわないか」という不安や、役に立ちたいという純粋な願いを持っていたはずでした。その気持ちを、日々の業務の中で立ち止まって思い出し、目の前のご利用者に丁寧に向き合うことが、事業所全体のサービスの質の向上につながったと感じております。

#### ○行事報告

外部講師を招いての定期的な行事や、季節のコンサート、地域のこども園との交流会を開催いたしました。また、お誕生日会やクリスマス会、節分の豆まき、おやつレクリエーションなど、ユニットごとの行事も行い、ご利用者と職員と一緒に季節の行事を楽しみました。「のこのこたより」を毎月発行し、ご利用者ご家族、地域の方々にも広くあじさい園 宝の運営状況を知っていただけるよう情報発信を行いました。ご利用者のお元気な様子をご家族にお届けすることで、安心・安全な利用につながっています。

#### ○人材育成

実務経験3年を満たす介護職員には介護福祉士国家試験を受験し、キャリアアップをはかっています。介護・医療系の資格を持たない介護職員に対しては、認知症介護基礎研修を受講していただき、基礎知識を身に付けていただけるよう支援しています。基礎疾患を持つ高齢者が増えるにつれ、介護職員にも求められる介護・医療に関する専門知識や手技はより高度なものとなっており、入職後の継続的な研修や実習等のサポート体制の構築に取り組みました。介護福祉士資格取得を目指す職員も年々増え、外国人技能実習生も日々勉強に励み、1名が介護福祉士国家試験に合格しました。認知症介護基礎研修、実践者研修、ユニットリーダー研修等の積極的に受講する支援を行いました。

職員ひとりひとりの目標設定を明確にし、ご利用者に質の高いケアを提供するために、自分自身に今何が必要なのかを考え、行動に移せる人材育成を目指してまいりました。

## ○医務室より

令和7年は、宝の開園から10周年を迎えた年でした。年間法人目標である「初心忘るべからず」に基づき、医務室一同で取り組みました。

10年前と変わらず、ご利用者の健やかな生活の継続のため、個々の思いに応えられるよう一人一人に寄り添い傾聴し、積極的に日常生活の援助に加わることで健康管理に繋げていけるように努めました。

また昨年度は6名のご利用者の旅立ちをお手伝いさせていただきました。ご利用者それぞれに身体のだる状態が異なり、またそのご家族により望まれる最期が違い、一筋縄ではいかないケアや対応の難しさも感じました。それでもそれぞれのケースに沿った看取りケアができるよう、医師や介護職員、栄養士など多職種との連携、相談、情報共有に努め、よりご納得いただけるような最期を迎えられるように工夫しました。

歯科では、全身状態と口腔内の状態の相互関係に気を配り、ご利用者がお口の痛みや義歯の不具合なく、安全にお食事をしていただける口腔環境の維持を目標にしています。認知症で義歯がうまく使えなくなったり、食べ物をうまく咀嚼することができずに嚥下することがあるため、安全な食事形態について多職種で話し合っています。その際、ご本人が希望する食事形態を尊重できるよう、介護と医療の連携を大切にしています。ご利用者お一人おひとりにどのような支援があればご自分でも口腔ケアができるのかを常に考え、介護職員とも情報共有しながら自立支援につながる口腔ケアを行っています。また、歯科衛生士学校の実習生を受け入れ、介護現場での口腔衛生管理の重要性を学んでいただくことにも取り組みました。

## ○栄養士、調理師の取り組み

ご利用者にとって食事は楽しみの一つです。園で提供する食事でも大事ですが家族様と一緒に外食する機会が増えるということはご利用者のリフレッシュとなり心身共に健康に過ごしていただける大切な機会となっています。

毎日食べる食事の中で楽しみを感じていただきたく、厨房職員や他職種とカンファレンスを行い食事のイベントを積極的に行いました。各ユニットで食事のイベントを考えホットプレートを使用したベビーカステラやたこ焼きを行いました。ソースの焼けるかおりにはご利用者も食欲がそそり沢山めし上がっておられました。

毎年人気のお寿司のオーダーバイキングは継続し嗜好調査で人気の高い「お刺身」と「すき焼き」の『選べる献立の日』を設定し、色々な種類の中から好きな物を選ぶ自己決定の機会を作り選ぶ楽しさを大切にしています。

食事は単なる栄養摂取だけではなく、人とのつながりや季節を感じることができま。園で作った作物はご利用者に「どんな料理で食べたい？」と会話をし、なるべくリクエストに応じて提供するようにしました。ご利用者からは「もうそんな季節か、美味しいわ」や「好きな料理にしてくれてありがとう」などの言葉が聞かれ、思わずこぼれる笑顔も見ることが出来ました。

これからも初心を忘れず、行事を決めるときにはスタッフ主導ではなく、ご利用者が食べたい物、したいことを優先した行事に努めます。

物価高騰の中、ご利用者にはなるべく今までと変わりのないようにならぬ業者から見積もりをとり、おいしくめしあがっていただけるように努めます。

令和7年度を振り返って

・栄養ケアマネジメントについて

特養ご利用者47名中に低リスクが19名(40.4%)、中リスクが22名(46.8%)、高リスクが6名(12.7%)いらっしゃいます。

低リスクの方はその状態を維持し、中リスクの方は低リスクになるように、高リスクの方は中リスクを目指して栄養改善の為に計画を作成し改善に努めました。

年々高リスクの方が増えており日々の体重の増減や食事摂取量・嚥下の状態をしっかり把握し、他職種と情報の共有に努めました。

栄養管理を行う上で個別に対応しているのは食事形態です。

ご利用者の年齢の上昇に伴い普通食を食べる方が減り、嚥下調整食が必要な方が増えてきています。現在は普通食、一口大、刻み食、超刻み食、ソフト食、ペースト食を個人の嚥下状態に合わせて提供しています。

ミールラウンドを行い食事時の姿勢や摂取・嚥下状態、摂取量を観察し、他職種とカンファレンスを行い、食事形態をより細かく見直し提供しています。

食事の進みが悪い方はご家族に協力いただき、食べなれた物や好きな食べ物を差し入れていただきご利用者自身の食欲を引き出すように心がけています。

食事量が少ない方や褥瘡がひどい方は他職種とカンファレンスを行い個々にあった栄養補助食品をご家族に提案し一番良いものを提供しています。

看取りケアのご利用者には食事摂取量が少なくなる為、利用者様の食べたい物や好きな物を尊重し家族様に持参していただき、一口の食事が好きな物である幸せを大切にしています。

栄養ケアマネジメントを行うことで栄養状態を把握しさらに、ご利用者やご家族とも話す機会が増え自宅での食事の様子、嗜好や意思に寄り添うことが出来ました。

・食事提供について

食事については出来るだけ口から食べていただきたい、美味しいと感じていただきたいという思いで提供しています。「温かいものは温かく」「冷たいものは冷たく」という食事をおいしい状態で食べていただくよう努めました。また毎月給食会議で他職種からの意見、要望などに対して厨房会議で話し合い対策を検討しフィードバックしています。

またご利用者の自力摂取を促す為に他職種とも話し合い食べやすいようにサイドテーブルや台を使用し高さの調節を行い、グリップ付きのスプーンや傾斜や滑り止めの付いた自助食器を使用しています。

感染症が発生した場合は看護師・介護主任の指示のもとディスプレイ食器の対応に変更しスムーズな食事提供に努めました。

・安全な食事・衛生管理について

食中毒及び感染症予防に努め、安全かつ安心な食事提供を目標としてきた結果、食中毒事故もなく無事に提供することが出来ました。調理従事者としての自覚を各々が

しっかり持ち健康管理も仕事の一つとして努め、配膳ミスなどのケアレスミス無くすためにもダブルチェックを継続していきます。

・非常食について

災害時に備えて非常食を備蓄しています。近年、地震や自然災害が増えている中、BCPの訓練を兼ねてご利用者や職員に非常食を食べていただく機会を作りました。今年是非常食の入替えの年となりました。ご利用者が高齢化となり嚥下調整食が多くなっている中、全員が共通で食べられる物や食形態に合わせた非常食を用意しました。他にも日頃から食べ慣れている食品のローリングストックを行い無駄のないように心がけています。

**年間提供食数**

	特養	ショート	グループホーム
年間食数	51,832	7,918	18,436
1ヶ月平均	4,319	659	1,536
1食平均	46	7	17
年間総食数	78,186		

**食種別食数 令和8年3月31日現在**

	特養	ショート	グループ	合計	割合
普通食	9	5	17	31	43.7%
刻み食	26	2	0	28	39.4%
超刻み食	6	0	0	6	8.45%
ソフト食	5	0	0	5	7.04%
ペースト食	1	0	0	1	1.48%
療養食	0	0	0	0	0%
合計	47	7	17	71	

**令和7年度 栄養摂取基準**

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1400kcal	50g	35g	240g	7g未満

**令和7年度 実給与栄養量**

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1395kcal	48.4g	32.3g	213.1g	6.7g

○事故防止対策

職員間において事故報告は軽微なものも含めて報告を行い、共有することで重大事故の予防につなげることを周知しました。その結果事故件数は昨年度と比較して大きな差はありませんでしたが、転倒、骨折などの重大事故の発生は減少傾向がみられることは大きな成果であったと思います。

昨年同様ではありますが居室、フロアでの転倒事故が多く見られました。時間帯別

では起床後、就寝前、食後の時間帯に多く発生しています。ご本人の所在の確認、見守りの強化を図っていますが、ご自身でトイレに行かれた際や居室での転倒、他のユニット等での事故も発生しました。

ヒヤリハットは、主に居室やフロアでの転倒、転落、車いすからのずり落ち未然が多く報告されています。お薬の変更時や座薬の使用時など心身に変化が前もって予期される際には特に注意するなど、日常の生活リズムの把握も含めてご利用者の変化を早期に気づけるように努めることで事故予防を図っていきたくと考えています。

ユニットケアの特性上、居室内での転倒事故の割合は高く、夜間帯、早朝の時間帯は他のご利用者の介助と重なることから、見守ることが難しいこともあります。しかし日々の業務の中で生まれる小さな気づきを共有し合い、日々の目配り、気配りを積み重ねることで、安全で信頼される施設を築くことができます。見守りセンサー等も活用し、細心の注意を払ってユニット全体の見守りを行い、事故防止に努めてまいりました。

#### 報告件数

事故		ヒヤリハット	
転倒	48	転倒未然	4
転落	15	転落未然	5
ずり落ち	3	ずり落ち未然	3
創傷	13	園離未然	5
誤嚥誤飲窒息	10	誤薬未然	3
表皮剥離	2	外傷未然	1
医療処置	4	異食未然	4
誤薬与薬等	4	暴言暴力	1
その他	15	誤嚥未然	1
		その他	10
計	114	計	37

#### ○感染症防止対策

手洗い、マスク着用、手指消毒といった基本的な感染症対策を日頃から心がけました。また、感染症を持ち込まない、広げないという意識を職員一人一人が持ち行動しました。しかし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行期には、ご利用者と職員に感染者が出ました。居室対応をすることで、ご利用者の活動範囲が狭くなり、短期間でもADLが低下する場合がありますため、医務室を中心に各部署が連携して迅速な対応を取り、早期に終息するよう努めました。

#### ○苦情対応

ご利用者やご家族から職員の対応や、サービス内容に関するご意見をいただきました。

特にショートステイのご利用者からの、職員の対応についてのご意見を多くいただきました。共同生活の場では、皆が居心地よく過ごせる環境づくりが必要です。ご利用者の中には認知症の方もおられるため、行動心理への理解を深め、その日その時の状態に応じた声掛けができるように努めました。一つ一つのご意見に真摯に向き合い、問題解決に向けて迅速に対応し、サービスの質の向上に努めます。

#### ○ICT

ケース記録や食事、水分、排泄記録をタブレット端末を用いて入力しております。手書きの時よりも記録に要する時間が短縮でき、ご利用者と向き合う時間を多く確保できるようになりました。また、記録を分析することで、ご利用者の個別支援につなげることができました。

外国人職員にとっても、記録の負担が少なく、日本語の勉強にもなっています。介護職、医療職、ケアマネジャー、栄養士が各専門分野の情報を共有し、ご利用者にとって最適なサービスが提供できるよう努めました。

#### ○看取りケアを振り返って

今年度は、ご利用者6名の方を看取りケアを行いました。

その中の1名の方は、最後の時期にご家族が毎日面会に来られ、娘や孫が泊まり込みで付き添う場面もあり、ご家族の温かさに触れながら看取りケアを行うことができました。ご家族が関わる時間が十分に持てることで、ご利用者の安らぎだけでなく、ご家族の看取りの受容にもつながっていることを再認識しました。

また、すべての方において、ご利用者の状態変化をご家族に報告し、その都度、意向確認を行い、ご本人やご家族の意向を尊重したケアの提供に努めました。

こまめな状態報告と意向確認することで、ご家族との信頼関係の構築と意思決定支援が円滑にできたと思います。

今後の課題として、看取りケアを行う際のご家族の宿泊や付き添いへの柔軟な対応、職員間で情報共有の強化と、状態変化の対応を統一できるよう、体制作りに努めたいと思います。

※別紙9 参照（令和7年度 行事報告 特養・GH あじさい園宝）……………P.44

※別紙10 参照（特別養護老人ホームあじさい園宝 利用状況）……………P.45

※別紙11 参照（令和7年度 あじさい園宝 苦情相談対応報告）……………P.47

## 8 ショートステイ あじさい園宝

短期入所生活介護は、ご利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、自宅にこもりきりの孤立感の解消や、心身機能の維持回復だけでなく、ご家族の介護負担軽減なども目的としています。また、当施設では、併設の特別養護老人ホームに入居するまでの間、同じ施設の中で、環境の変化をできるだけ少なくしてご利用いただく場合もあります。利用の目的はお一人おひとり異なりますが、ご利用者ファーストの初心を忘れることなく、安心と満足度の充実を目指して、サービス

の提供を行いました。

介護が必要な方の短期間の入所を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援を行う中で、ご本人とご家族への丁寧な意向の確認と、希望を伺いながら、寄り添えるユニットケアを目指して取り組みました。

今年度は、奈良市役所福祉政策課との連携の下、奈良市認知症高齢者緊急一時宿泊事業の第一号事例の受け入れを行いました。受け入れに際し、ご本人の状態についての情報量が不十分な点もありましたが、一定期間ショートステイをご利用いただき、ご本人の希望に合った施設に入居されました。身寄りのない高齢者等への支援が社会問題化する中で、今後もこのような事例が発生すると考えられます。高齢者福祉、生活困窮者支援等制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」という従来を超えて、人と人がつながり、助け合いながら暮らすことができる、地域共生社会の実現の担い手として取り組みました。

令和7年度利用のべ人数 2773名 年間平均稼働率75.97%													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	のべ
男	65	73	64	106	100	106	84	85	64	60	71	61	939
女	141	148	175	151	169	151	162	164	161	154	85	170	1831
合計	206	221	239	257	269	257	246	249	225	214	156	234	2773
稼働率	68.66%	71.29%	79.66%	82.90%	86.77%	85.66%	79.35%	83%	72.58%	69.03%	55.71%	75.48%	75.97%
利用者平均介護度 男性3.1 女性3.0 平均年齢 男性89.1歳 女性91.2歳													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	3.0	3.0	3.0	3.0	3.2	3.4	4.0	3.3	3.5	2.7	2.5	2.2	3.1
女	2.8	3.2	2.7	3.0	2.4	2.9	2.8	3.2	3.2	3.3	2.9	2.7	3.0
平均	2.9	3.2	2.8	3.1	2.7	3.2	3.1	3.2	3.3	3.1	2.8	2.5	3.0

### 【事故報告】

令和7年度ショートステイの事故報告件数は30件。要介護2以上の方で、利用に慣れない段階での外傷、転倒などの報告が多く見られました。施設の設備や環境に慣れていない間は、事故が発生する確率が高くなります。利用前に、ご利用者の情報を詳しく把握し、職員間で共有するとともに、利用初日の夜間帯は特に状態変化に注意するなどの対策を取っておりますが、個室環境であり目が届きにくいこともあります。日中の様子観察と記録をより丁寧に行い、心身の変化に注意することで、夜間帯の事故防止に努めました。

他には、離設事故（正面玄関から1件、居室掃き出し窓から1件）も発生しましたが、早期の発見ができ、ご利用者に怪我等はありませんでした。ユニットと事務所が連携して所在の確認を行うことを、再度周知徹底いたしました。

事故を未然に防ぐためには、日常のケア一つ一つが職員都合にならないように気を付ける必要があります。安心して自分のペースでお過ごしいただけるよう、ご本人のお気持ちを伺い、ご利用者ファーストを再確認いたしました。

事故内訳	
転倒	11
転落	2
ずり落ち	2
外傷	8
誤嚥・誤食	1
薬剤	3
離設	1
その他	2
合計	30

## 9 グループホーム あじさい園宝

昨年度は、退居者が5名おられました。そのうち、2名の方があじさい園宝の特養へご入居となり、円滑な支援ができました。しかし、新規ご利用者の獲得に苦慮することもあり、1件の空室が継続しました。空室が継続したことについては、ご利用者確保に向けた情報発信が十分ではなかったことが要因と思われ、今後は、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等との連携を図り、安定したご利用者の確保に努めます。

日頃の運営面では、定期的に運営推進会議を開催し、また、地域のボランティアの受け入れも行い、地域との連携を図ることができました。行事については、ご家族とともにお花見に出かける機会を設けることができました。ご利用者とご家族の外出も多くみられ、その都度、柔軟に対応することができました。

今後も、職員の認知症ケアに関する知識、技術の向上と、生活歴の把握やケース検討を通じて、個別性を重視した支援を行うよう努めます。そして、日々のケアを振り返り、チーム全体で「その人らしさ」を尊重したケアを実践できるように取り組んでまいります。

※別紙 13 参照（令和7年度 利用状況 グループホーム あじさい園宝）…P.49

※別紙 14 参照（令和7年度 事故発生状況 グループホーム あじさい園宝）P.49

## 10 グループホーム あじさい園

グループホームには個性、介護度 1～5、ご家族の思いなど様々な方にご利用いただいております。毎日の業務の中でお一人おひとりに合わせ職員が初心を忘れずにご利用者と接し業務にあたれたか？達成評価はカタチとして見えにくいところがありますが、ご利用者の小さな変化に気づいたり、体調に心くばりしたり、またご利用者の喜ぶ顔に元気づけられたりと思う気持ちは職員皆同じだったと思います。より良い生活を送っていただくためにお手伝いをしているという一方的な思いより、職員が普段ご利用者から学ばせてもらっている、助けてもらっているという気持ちも大切だと思いました。新しい介護ソフトの導入で転換期を経験し、慣れない作業にも一から習得して改善点なども話し合いました。

感染症に関しましては発症された方はおられましたが拡大することなく最小限に抑えることが出来ました。まだまだ勉強不足な面もあり、月日が経つと気の緩みや意識も薄れがちですが、ご利用者の体調に配慮した変化に即した対応ができるよう努めてまいりました。

### 「運営推進会議について」

書面での開催を1回行いましたが、対面での会議が定着してまいりました。新しくオープンしたオレンジカフェ「あい」に地域の方にもお越しいただきゆったりとした雰囲気の中での会議が恒例となっています。会議では研修を行い、グループホームの運営状況等を報告をするなど参加者の皆様と大切な時間を過ごす事が出来ました。小山先生によるヴァイオリン演奏会を行った時には、「ヴァイオリンの生の演奏は初めてでした」「心が落ち着きました」などと言っていた喜び好評でした。

今後もオレンジカフェ「あい」での開催がメインになると思いますが、参加者の方々と共に有意義な会議となるよう努め、ご意見を真摯に受け止めグループホームの運営に役立てていきたいと思っております。

※別紙 15 参照 (グループホーム あじさい園 行事報告) ……………P.51

※別紙 16 参照 (グループホーム あじさい園 利用状況・事故状況) ……P.51

## 11 デイサービスセンター あじさい園

### ◇法人目標「初心忘るべからず」

勤務年数や経験年数を重ねると、信頼関係が構築される反面、無意識のうちに「当たり前」が付きまとい、慣れやいつもの事があふれてしまいます。そんな時こそ「気づく事」当たり前の対義語「有るが難しい＝ありがたい」の気持ちで心の余裕をもって人と接する事が大切になります。

令和7年度もご利用者の利用時の様子や変化に気づく心・気づこうとする心・感謝する心・相手を思いやる心から出た行動など様々な事が、生活を支えるプラン作成・プラ

ン遂行につながる事を知り、前年よりも、昨日よりもの気持ちを持ち続けることの重要性を確認しました。

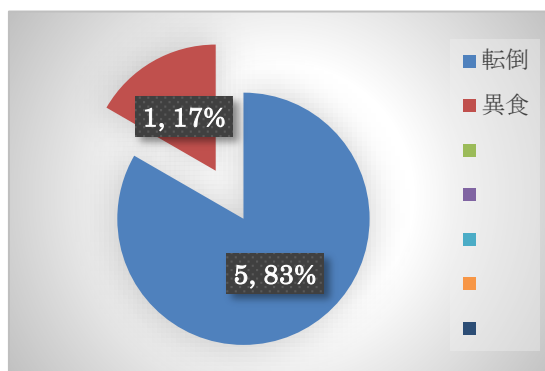
◇令和7年度も利用者数は減少しました。令和6年度の総合計が5590名に対し令和7年度は5460名となりました。

同じご利用者の利用回数の増加はありましたが、新規ご利用者獲得回数は低値にとどまりました。

今後、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携や地域の情報等ニーズの把握を充実させ、新規利用者も含め利用者数の増加を図る取り組みに挑戦します。

#### ◇事故報告◇

	合計6件
転倒	5件
異食	1件



・転倒場所はデイルーム、脱衣所、脱衣所前廊下で入浴前後はご利用者も慌てる場合もある為、常時、職員も落ち着いて誘導、介助を行うことを意識し、忙しくても徹底していくことを確認しました。

リスク管理の重要性を把握し、予後を想定しながらケアを行い、事故を防止する様努めました。どの事故に関しても、引継ぎまでの安全確認の不足や安全の未確保で離れた事が原因でした。

\*日頃からご利用者の状態・行動を興味深く観察し、コミュニケーションにての意思疎通・情報共有・些細な変化等を見逃すことのないよう、常に緊張感をもって従事する事の大切さを念頭に置き、職員同士の報告・連絡・相談を心がけ、情報共有し、再発防止に全力でチーム一丸となることが需要と考えます。臨機応変に対応する事が出来るよう技術向上に努めて行くことが、各ご利用者の介護計画（プラン作成・プラン遂行）、的確な自立支援につながると考えます。

※別紙 17 参照（令和7年度 行事報告 デイサービス）……………P.52

※別紙 18 参照（令和7年度 利用者総合計・平均・稼働率 デイサービス）……P.53

## 12 ケアハウス あじさい園

### 法人目標「初心忘るべからず」について

職員は、ご利用者の皆さんへの対応には初心に立ち返り丁寧に接するよう努めてまいりました。

ご利用者皆さんの体調の変化には十分気を付けて観察し、困りごとや心配事に対しては丁寧に傾聴し解決に向けた対応に努め、頂くご意見や要望に対しては真摯に受け止め対応いたしました。

今期はコロナ禍以来滞っていた外出レクを再開し、ご利用者の皆さんに園外の空気を思いっきり吸っていただき、季節の変化を感じ取って頂きました。

また、日ごろからのご利用者や職員の協力で、今期はインフルエンザや新型コロナなどの感染症に罹患することはありませんでした。

皆様が安心して健康に過ごしていただけるよう、職員一同初心を忘れず新たなことに挑戦し、共に笑顔で進んでいきたいと思えます。

### 令和7年度を振り返って

令和7年度のご利用状況は、新規入居者6名・退居者7名（内施設入所は4名、入院3名）でした。月平均入居者数は21.3名で稼働率は70.99%、平均年齢86.5歳、平均介護度は1.2でした。

事故発生件数は31件で、13名の方が事故に遭われ、内1名の方は13回転倒し、都度予防策を検討いたしました。

感染症については、9月に職員が新型コロナウイルス陽性となり、入居者9名をイエロー対応としましたが、感染者は発生しませんでした。また、備品の在庫チェック及び確保に努め、引き続き感染緊急時に備えました。

ご利用者には、身体を動かすストレスをため込まないようにとレクリエーションや健康体操、園外散歩等の機会を多く持ちました。

久しぶりに外出行事も4回企画し、多数のご参加を頂き、皆様とても喜んで下さいました。

また、ラジオ体操や食事前の口腔体操も毎日行い、皆様の心身の健康維持と笑顔でお過ごし頂けるよう努めました。

平均した稼働率を維持できるよう営業活動を積極的に取り組みました。

これからも引き続き営業活動に取り組んでまいります。

※別紙 19 参照（令和7年度年間行事報告 ケアハウス）……………P.54

※別紙 20 参照（ケアハウス 利用者の状況）……………P.55

## 13 居宅支援事業所 あじさい園

### 令和7年度を振り返って

今年度の居宅介護担当総件数（予防支援を含む）は要介護 595 件、要支援委託 128 件、総合計は 723 件でした。

昨年と比べて、要介護 29 件の増加、要支援委託は 13 件の増加、総合計 42 件の増加でした。

全体増の一因として、今年度は要介護認定から要支援認定に変更になり、そのまま要支援委託の契約を交わすケースが多く、要支援委託の件数の増加につながったと思います。

要介護者については昨年と同様に急な体調不良や癌末期での入院で退院してきてもすぐに再入院となるケースが多かった。毎月 2.3 件の新規利用の相談がありました。年々癌で通院加療の方が増加している傾向です。

今年度途中より介護ソフト「ほのぼの」を新たに導入、使用操作方法に右往左往しながら慣れるのに悪戦苦闘しましたが徐々に慣れてきたと思います。

今後もひきつづき安定した稼働につながる支援を行うとともに、ICT を活用し業務の効率化、情報連携の強化につとめていきたいと思っています。

### 法人目標「初心忘るべからず」について

居宅介護相談支援については何年経っても上手くできない自分にもどかしくなることもあります。業務の慣れを持たないよう、新しいことへ挑み、業務の工夫しながら今の自分にできるベストは何か？を自問してきました。医療も細胞の入れ替え等の治療も進化しており我々ケアマネジャーも常に勉強を怠らず、年齢に関係なく今後も新しいことへのチャレンジに最初の一步を踏み出せるよう努力していきたいと思っています。

### 月別居宅介護支援担当数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	48	48	49	52	51	53	49	49	49	51	48	48	595
要支援	9	9	10	9	10	11	11	12	12	11	12	12	128
月別合計	57	57	59	61	61	64	60	61	61	62	60	60	723

## 15 オレンジカフェ すいもん

介護をする方も認知症の方もリラックスして、安心して、楽しくおしゃべりして、おいしいケーキセットで笑顔になっていただきたい、オレンジカフェすいもん、オレンジカフェあい、は皆様の居場所として皆様にご利用いただきました。

認知症の人の形成している世界を理解し大切にする、その世界と現実とのギャップを感じさせないようにすること。これは認知症の方を介護する時に忘れてはならないことで、つまり、ご本人の記憶になればご本人にとって事実ではないこと、ご本人が思ったことはご本人にとっては絶対的な事実であること、認知症が進行してもプライドがあること、です。

すいもんは東大寺大仏殿から南西徒歩3分、鹿で有名な奈良公園の中にあり、和室、リビング、お茶室、かやぶき屋根と広い日本家屋を楽しめます。大きいお庭では四季折々の花が咲き、大仏様に見守られた場所で深呼吸したくなります。スタッフ、ボランティアさん、地域の皆様のおかげで、大人気のオレンジカフェすいもんとなりました。

オレンジカフェあいも奈良市東部の田原地区で、地域の方々を受け入れています。こちらも日本家屋で田原の茶畑に囲まれ、落ち着いた雰囲気です。

パティシエ手作りのケーキセットを楽しみながら、地域共生社会の一助になることを願って努めました。

## 16 ニコニコタクシー(介護輸送サービス)

「ご一緒に 楽しい人生」を法人の初心として、ご利用者やご家族に寄り添い、安全運転につとめ、事故の無いサービスの提供を行い、急なご依頼に対しても柔軟に対応、ご利用者・ご家族・地域の皆さまや関係機関との信頼関係の継続や構築に力を注ぎ、地域共生社会の実現に向け、努めました。

地域包括ケアシステムをすすめる中で、奈良市東部山間地域における在宅での生活を支えるためのタクシー事業においては、要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、一人では公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者は全員ホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全・安心なサービス提供を心がけました。

また、送迎中やご自宅での介助、受診時においても、ご本人の気持ちが和むよう寄り添うことを実行しました。地域の足となり、利用者の皆さまが地域で安心してお暮し頂けるよう、安全第一を心に刻み、迅速な対応を行い、ご利用者との信頼関係を築いてきました。ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりに安心してご利用いただけるようお気持ちに寄り添い、笑顔での挨拶、優しい言葉遣い、敬語の徹底と接遇に気を付け、サービスの提供に努めさせていただきました。移動サービスの提供のみならず、介護支援専門員、介護職、医療機関、看護師等多職種と連携をとり、安心安全なサービスを心がけました。

## 17 ハーネ中御門

### 年度開始時の状況

令和7年度は、前年度末に満床（定員10名）を回復した状態で開始となりました。ご利用者の生活状況や施設運営も徐々に安定し、継続的な支援体制の構築に取り組む年度となりました。

しかし、4月30日付で女性利用者1名が退所され、一時的に空室が発生しました。施設としては早期の満床回復を目指し、体験利用や関係機関との連携を進めた結果、7月14日に新たな利用者が本入居されることとなりました。

また、令和8年4月1日開設予定である「ハーネ高畑町」に向けた準備を進める年度でもありました。中御門で培ってきた支援経験や運営体制を整理し、新施設運営へつなげていくため、職員間での情報共有体制や役割分担の見直しを行いました。

生活支援面では、ご利用者一人ひとりの状態に応じた支援を継続し、安心して生活できる環境整備に取り組みました。また、体験利用の受け入れも積極的に行い、利用希望者との相性確認や生活適応の見極めを丁寧に実施しました。

### 成果と反省点

#### 成果

令和7年度は、ご利用者が安心して生活できる環境づくりを継続しながら、組織としての支援体制強化に取り組んだ一年となりました。

特に、職員間の情報共有体制強化を目的として、ChatWorkを活用した「月次目標・振り返り・定例会議記録」の共有運用を開始しました。

この取り組みにより、

- ・月ごとの目標設定と振り返りの共有
- ・支援内容や支援意図の統一
- ・ヒヤリハット情報の共有
- ・緊急対応体制の整理
- ・新人スタッフとの支援観共有
- ・実践を振り返る文化づくりなどが進み、個人任せではなく、チームとして支援を行う意識づけにつながりました。また、緊急連絡先や服薬情報の見直し、急変時対応の確認なども実施し、ご利用者の安全確保に向けた体制整備を進めました。さらに、令和8年4月1日開設予定である「ハーネ高畑町」を見据え、中御門・高畑町双方を意識した情報共有や支援体制の整理を行い、ハーネ全体としての支援力向上につなげる準備を進めました。

食事提供や清掃についても、日々の生活支援の基本を重視し、安心して生活できる環境維持に努めました。

#### 反省点

一方で、支援に対する主体性や情報共有のタイミングについては、職員間で差が見られる場面もありました。

気づきがあっても即時共有につながらないケースもあり、申し送りやチャットで

の共有徹底については継続した課題となっています。

また、中御門と高畑町の両施設を見据えた体制づくりを進める中で、役割分担や組織的な連携強化についても、引き続き整理が必要であると感じています。

ご利用者支援においても、精神面や体調面の変化に応じた柔軟な対応が求められる場面があり、今後も関係機関との連携や職員の対応力向上が必要と考えています。

### 今後の取り組み

今後にご利用者一人ひとりの状態に応じた支援を継続するとともに、情報共有体制の強化や職員間連携をさらに進めてまいります。

また、ChatWork を活用した振り返りや支援共有を継続し、「なぜその支援を行うのか」を理解しながら動けるチームづくりを進めていきます。

さらに、令和8年4月1日開設予定である「ハーネ高畑町」との連携を見据え、中御門で培った支援経験をハーネ全体の支援力向上へつなげるための準備を進めてまいります。

加えて、令和8年度からは障害福祉サービス向け業務支援ソフト「ケア・オール」を導入し、支援記録・情報共有・申し送り等の効率化を図ることで、より安定した運営体制の構築を目指します。

### 総括

令和7年度は、前年度に回復した安定運営を維持しながら、組織としての支援体制強化と、新施設開設に向けた準備を進めた一年となりました。日々の支援の積み重ねを大切にしながら、情報共有・振り返り・役割分担の整理を進めたことで、「個人で支える」から「チームで支える」体制への移行が少しずつ進んだ年度であったと感じています。

今後も、ご利用者が安心して生活できる環境づくりを継続するとともに、中御門で積み重ねてきた支援経験を「ハーネ高畑町」へつなげ、ハーネ全体としてより安定した支援体制づくりに努めてまいります。